

# 日印の未来へ架ける - 900kmの旅路

## 横断課題体感型アイデアソン 日印若者40人

2023年に人口世界一となる「超大国」インド。その首都デリーで16日、未来の日印パートナーシップを深めるための夢を乗せたある「ツアー」が発射した。両国の18歳から25歳までの若者計40人が参加する「900km 横断課題体感型アイデアソン」と題した6日間プログラムがスタート。都市や農村などをバスで回り、社会課題解決策や日印協力のアイデアなど出し合いながら、900km超の旅路を進む。

### ホンダ・タタなど見学

インドと日本が1952年に国交を樹立してから今年で70周年の節目。同プログラムは日本大使館が管轄するその記念事業として、現地進出企業が加盟するインド日本商工会などで結成した青年交流事業実行委員会が主催する。今回、日本人とインド人20人ずつの募集に対し、日本から628人、そしてインドからは4770人も学生から応募があったという。



出発地デリーではホンの二輪工場のほか、現地財閥の中核企業であり、世界中からAI関連などの引き合いがあるタタ・コンサルティング・サービシス・スルビン・スルビン、スルビンに隣り合う世界最古の物流関連ユニ教とシャイナ教の聖地であるバラナシ。日本の無償資金援助で作られた施設で、発表や表彰式などが行われる。

二コイン企業などを訪問。2億人の人口を抱えるウツタルプラデッシュ州では新旧市街地の比較、日本の技術を基に有機栽培農業を手がける農業者組合などを訪問する。

〈企画・製作=日刊工業新聞社総合企画部〉



「Hack The Innovative Future」と題して、現地進出企業が加盟するインド日本商工会などで結成した青年交流事業実行委員会が主催する。今回、日本人とインド人20人ずつの募集に対し、日本から628人、そしてインドからは4770人も学生から応募があったという。

### 日印関係 - コア人材育成

委員会事務局は日印の未来に関心を寄せる若者たちが書いた多くの論文のすばらしさに感銘を受けながら選出者を決めなければならぬという。日本からの応募は女性が6割、男性が4割だったのに対し、インドの応募構成はちょうど真逆だったという。このユニークな選出者異なるバックグラウンドを持つ4人1組でチームが作るものを描いたと強調している。

現地インフラ事情、環境はウィズ・コロナの育まれてきた日本とのデジタル化や、ワイ大に伴いこれまでの大規模なデジタル化、ワイ大に伴いこれまでの大手製造業だけでなく、中堅・中小企業の進出増やサービス産業展開と経済的、それを目掛けて有関係性を深めて、従来以上に真剣に向き合うべき国となっている。

2022年の実質国内総生産(GDP)成長率は主要国の中で最も高い7.4%と予測されている。国際通貨基金(IMF)が発表した22年のGDPランキングでも英国を抜いている。

米印や日印の内総生産(GDP)成長率は主要国の中で最も高い7.4%と予測されている。国際通貨基金(IMF)が発表した22年のGDPランキングでも英国を抜いている。

日印ビジネスの未来としては、中間層の拡大に伴いこれまでの大手製造業だけでなく、中堅・中小企業の進出増やサービス産業展開と経済的、それを目掛けて有関係性を深めて、従来以上に真剣に向き合うべき国となっている。



### TREND CATCH

### 日印国交樹立70周年

勇壮な神輿。そのいなせな担ぎ手の肩は、多量の差こそあれ必ず衝撃を受けます。じつは、機械の作動中も同様です。さまざまな負荷によって衝撃が生じ、それがトラブルの原因ともなります。そこで、サスペンションユニット(ロスタ)の6種類です。金属製の外・内殻の間に弾力性と減衰性に富む予備圧縮されたゴムを圧入したユニークな仕組みで、衝撃を大きく吸収して、機械を衝撃からしっかり護ります。しかも、上下・左右・前後と、どの方向の荷重も許容でき、取り付け位置はまったく自由です。

サスペンションユニット  
〈ロスタ〉

三木プーリ